

2023 年度 学校評価報告書

(自己評価・授業評価・学校関係者評価及び次年度方針)

2024 年 7 月 31 日
大阪信愛学院中学校高等学校
学校評価委員会

はじめに

学校教育法及び同施行規則に基づき、本校において学校評価を実施するため、2024年2月に本校の教員、及び保護者に「学校自己評価アンケート」を実施した。また、生徒には「授業評価アンケート」を1月～2月にかけてWeb配信し、結果を集約した。その後、中学校高等学校の保護者の代表役員、卒業生の代表役員、卒業生保護者の代表役員に学校関係者評価を実施していただいた。本文書は学校評価委員会が分析したものである。

本校の設立母体は、フランスに本部のある「ショファイユの幼きイエズス修道会」である。系列校は日本に4校あるが、系列校の中で保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、そして大学を併設しているのは本校のみである。系列校と共にキリスト教的価値観に基づき、自分と他者がかけがえのない存在であることを認識するとともに、特に弱い立場に立って物事を考えることができる価値観を育んでいる。

本学校評価は、本校の現状及び課題を再認識する契機として位置づけ、伝統の上にたった変革を成し遂げるための有効な検証の手段としてとらえている。

1. 建学の精神 ～スクールミッション～

「キリストに信頼し、愛の実践に生きる」

1877年（明治10年）、フランスから派遣された4人のシスターたちは捨て子たちを養育することから始めた。それは「隣人を自分のように愛しなさい」というキリスト教的精神の表れである。その精神に従い、弱い者、困っている者、傷ついている者に手を差し伸べるという行為を実践した。

1884年（明治17年）、大阪の川口居留地に最初の女学校が創立された。信愛に集う生徒たちが建学の精神を体現し、社会に貢献することを目指す。

2. 教育目標

(1) キリストの教えに根ざした教育

キリストの人間観・価値観、及び『幼きイエズス修道会の精神』を基盤として、生徒の宗教心を呼び覚まし、心豊かな人間を育成する。

(2) 一人ひとりを大切にする教育

キリスト教的教育理念の中心である『神の愛』を土台として、生徒と教師、生徒相互の関わりを通して一人ひとりが大切にされ、受け入れられるよう配慮し、相互の人権を尊重する精神と態度を育てる。

(3) 能力の開発を目指す教育

生徒一人ひとりが与えられた能力に気づき、それを最大限に開発して、知・徳・体の調和のとれた人間となるよう育成する。

(4) 自己形成を促す教育

人間としての生き方を自覚し、主体性をもった学習や生活による目標の実現を目指し、常に自分自身の成長を図ろうとする自己形成力を持った生徒を育成する。

(5) 社会貢献への態度を育成する教育

各自の能力・個性を十分に生かし、時の動きに対応したよりよい社会の実現に貢献していくことのできる生徒の育成を図る。

3. 目指す教師像

教員の意識向上、及び組織の健全化を図るために、令和元年度よりモチベーション・マネジメント制度（教員評価制度）を導入している。モチベーション・マネジメント制度は、学校目標を各学年・各分掌にブレイクダウンし、さらに各々の教員がそれに沿って目標を設定する。これによって、個人の目標と学校目標が連動し、学校目標が効率よく達成されることを目指したものである。年度始めに、自身が所属するリーダーと目標設定を行い、中間フォロー、学年末の振り返り面談等を通して、目標達成を目指すために個々がPDCAサイクルを回す。また、キャリアパスと各段階での役割を明確にすることで、組織の健全化を図る。このモチベーション・マネジメント制度の設計にあたり、「目指す教師像」を明文化し、それをもとに議論を進めた。以下に本校の目指す教師像を示す。

キリストに信頼し、愛の実践に生きる教師

〈生徒に対して〉

- ・生徒の無限の可能性を信じ、成功と失敗を通して成長を支える教師
- ・コミュニケーションを十分にとって信頼される教師
- ・温かさを持って、場面に応じて厳しく指導できる教師

〈チーム（組織・同僚）に対して〉

- ・学校の目標に向かって率先して行動し、協働する教師
- ・敬意、感謝、信頼をもって、お互いに言うべきことは言い合う教師
- ・コミュニケーションを十分にとって助け合う教師

〈自身に対して〉

- ・専門分野に精通し、授業力、指導力を高め続ける教師
- ・向上心を持って新しいことに挑戦しながら、振り返り、改善できる教師
- ・社会とつながり、広い視野をもち、新しい教育を追究する教師
- ・常に心が健やかな教師

4. スクールポリシー

〈グラデュエーションポリシー〉

- ・自身の持っている能力を十分に発展させ、最大限の進路を実現する学力が身についている。
- ・グローバル社会に貢献できる知識・技能、思考力・判断力・表現力・読解力が身についている。
- ・学問及び実生活において、物事を探究しながら正しい選択及び行動できる習慣が身についている。
- ・違いを受け入れ、かけがえのない存在であることを認め合う価値観が身についている。
- ・弱い立場に立って物事を考えることができる視野が身についている。

〈カリキュラムポリシー〉

- ・授業は、教師から生徒への一方的な内容とせず、生徒と教師、生徒同士が双方向に学び、知識・技能、思考力・判断力・表現力・読解力を個々に最大限伸長できる内容とする。
- ・各コースごとの教育課程は、目標の進路を確実に実現できるように設定し、校内予備校、学習メンター制度、夏休み中の本校教員による夏期講座及び大手予備校による特別講座、ICT を利用した学習コンテンツなど、最高の学習環境を常に見直しながら生徒に提供する。※高校のみ
- ・「総合的な探究の時間」（「総合的な学習の時間」）を教育課程の中心に位置付け、各教科の学習に探究活動が重要であることを意識しながら学びを進め、探究力とともに、主体的に学習に向かう姿勢を養う。
- ・本学院の設立母体である幼きイエズス修道会のシスター、及びイエス・キリストの生き方を通して「どのような人になりたいか」を自身の進路と共に考える教育を実践する。

〈アドミッションポリシー〉

- ・本校の教育方針に共感し、自身の能力を最大限に伸ばす意欲のある生徒(児童)。
- ・中学校(小学校)で必要な基礎学力を備え、入学後も真面目に学習に取り組む生徒(児童)。
- ・落ち着いた雰囲気の中で、学校生活を送ることを希望する生徒(児童)。

5. 2023年度（令和5年度）学校目標

建学の精神の具現化を目指し、本校の教育目標の達成と学院の発展を図るために、次の内容を重点目標に掲げた。

- (1) 目指す教師像の実現
- (2) スクールミッション・スクールポリシーの実現
- (3) ICT の活用充実
- (4) 学習意欲及び学力向上
- (5) 進学実績の向上
- (6) 入学者数の増員

2023年度（令和5年度） 学校目標と具体的方策及び評価指標

	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
(1)	目指す教師像の実現	モチベーション・マネジメント制度によって、教員の意識向上と行動の変容を図る。	モチベーション・マネジメント制度において、教員による自己評価を行い、年度末における達成率が80%
(2)	スクールミッション・スクールポリシーの実現	①教員及び生徒に自己評価アンケートを実施し、意識付けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による学校評価アンケート該当項目80% ・生徒による自己評価を行い、該当項目80% ・保護者による学校評価アンケート該当項目80%
		②各行事がスクールポリシーに沿ったものになるように運営する(要項への明記や振り返りの実施)。	
(3)	ICTの活用充実	教員用iPadの追加導入及び、各授業におけるChromebookの利用調査を行う。研究授業においても積極的にICTを活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による学校評価アンケート該当項目80% ・保護者による学校評価アンケート該当項目80% ・生徒による自己評価アンケートを行い、該当項目80%
(4)	学習意欲及び学力向上	①授業評価アンケートの振り返りを実施し、課題等を共有することで改善を促す。	授業評価アンケート該当項目80%
		②英検・GTECスコア・漢検の各学年における指標を示し、生徒が率先して学習に取り組む姿勢をサポートする。	<p>英検</p> <p>中1)4級80% 中2)3級50% 中3)3級80%</p> <p>高1)特進準2級50% ・その他3級60%</p> <p>高2)特進2級60% ・その他準2級40%</p> <p>高3)文理系2級80% ・その他準2級60%</p> <p>GTEC</p> <p>スコア平均を前年度から40以上上昇</p> <p>漢検</p> <p>中1)4級50%(5級100%) 中2)4級100%</p> <p>中3)S文理3級100% 学際3級50%</p> <p>高1)特進準2級50%(3級100%)</p> <p>その他3級50%</p> <p>高2)特進準2級100%</p> <p>その他3級100%</p> <p>高3)文理系2級50%</p> <p>ソレイユ・看護・子ども準2級50%</p>
(5)	進学実績の向上	生徒の能力を最大限に伸ばし、希望する進路を実現するための学習指導と進路指導を担任と教科担当者が密に連携して実現する。	<p>国公立大・関関同立) 合格者数20名</p> <p>※文理S・文理コースは京阪神大または旧帝大を含む</p> <p>産近甲龍・三女子大) 合格者数30名</p> <p>※進学ソレイユコースはA0、学校選抜型(公募制)、一般入試のいずれかでの合格を含む</p>
(6)	入学者数の増員	①学びの環境を整え、受験生とその保護者にアピールする。	<p>入学者数</p> <p>中学) 40名</p> <p>高校) 240名</p>
		②重点地域を意識した募集活動を行う。	
		③各種イベント、広報ツール・方法の見直しや改善を行いながら募集活動を行う。	

6. 2023年度（令和5年度）学校評価アンケートと結果分析 及び 評価

アンケートは、7分野25項目について行った。結果と分析は以下の通りである。分析はA（よくあてはまる）を+2、B（ややあてはまる）を+1、C（あまりあてはまらない）を-1、D（まったくあてはまらない）を-2として、各評価A～Dの割合に乗じたものを下段にスコアとして中学と高校別に示した。スコア0.8以上のものを良好と考え、それよりスコアが下回るものを要検討事項と考えた。

A：信愛教育・カリキュラムポリシーについて

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				%	教員				%
		A	B	C	D		A	B	C	D	
A: 信愛教育・カリキュラムポリシーについて	1 授業は、教師から生徒への一方的な内容とせず、生徒と教師、生徒同士が双方向に学び、知識・技能、思考力・判断力・表現力・読解力を個々に最大限伸ばせる内容となっている。	25.8	59.8	13.3	1.2	%	29.2	64.6	6.3	0.0	%
	2 各コースごとの教育課程は、目標の進路を確実に実現できるように設定し、校内予備校、学習メンター制度、夏休み中の本校教員による夏期講座及び大手予備校による特別講座、ICTを利用した学習コンテンツなど、最高の学習環境を常に見直しながら生徒に提供されている。 ※高校のみ	29.4	55.8	14.6	0.3	%	50.0	41.7	8.3	0.0	%
	3 中学は「総合的な学習の時間」、高校は「総合的な探究の時間」を教育課程の中心に位置付け、各教科の学習に探究活動が重要であることを意識しながら学びを進め、探究力とともに、主体的に学習に向かう姿勢が養われている。	29.7	55.5	13.0	1.9	%	41.7	43.8	14.6	0.0	%
	4 本学院の設立母体である幼きイエス修道会のシスター、及びイエス・キリストの生き方を通して「どのような人になりたいか」を自身の進路と共に考える教育が実践されている。	26.9	53.6	16.9	2.6	%	31.3	52.1	16.7	0.0	%

< 1 > ~ < 4 >

評価項目 番号	中学保護者					高校保護者					教員				
	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問 1	34.0	47.2	17.0	1.9	0.94	24.7	61.5	12.7	1.1	0.96	29.2	64.6	6.3	0.0	1.17
設問 2						29.4	55.8	14.6	0.3	0.99	50.0	41.7	8.3	0.0	1.33
設問 3	39.6	45.3	11.3	3.8	1.06	28.3	56.9	13.2	1.6	0.97	41.7	43.8	14.6	0.0	1.13
設問 4	37.7	45.3	11.3	5.7	0.98	25.4	54.8	17.7	2.1	0.84	31.3	52.1	16.7	0.0	0.98

【分析と改善策】

今年度より、教育コンセプトを改め、スクールポリシーを中高ともに打ち出し、そのうちのカリキュラムポリシーを本項目の設問とした。中学及び高校ともに全項目良好な結果であった。スクールポリシーは、本校が実施している教育を明文化したものであり、より実情に沿ったものであったためであると考え。今後もカリキュラムポリシーを実践しながら、グラデュエーションポリシーに繋げていく。

【評価】

「信愛教育・カリキュラムポリシーについて」の今年度の評価は、全て良好な結果であるため、A～Cの3段階で評価（評価Aが最も評価が高い）し、Aとする。

B：教科指導について

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				教員			
		A	B	C	D	A	B	C	D
B:教科指導について	5 必要な学力が定着、向上する授業が行われている	22.3	57.3	18.6	1.9	31.3	64.6	4.2	0.0
	6 必要な学力が定着、向上する適切なコースやカリキュラムが設定されている	27.8	52.7	17.6	1.9	33.3	60.4	6.3	0.0
	7 放課後や長期休業中に、講座や補習が必要に応じて行われている	33.9	54.1	9.5	2.6	58.3	35.4	6.3	0.0
	8 学校として必要な国際教育が行われている	36.9	54.3	8.4	0.5	62.5	35.4	2.1	0.0
	9 ICTを活用して学習効率を向上させる指導が行われている	32.9	56.1	9.3	1.6	45.8	50.0	4.2	0.0

< 5 > ~ < 9 >

評価項目 番号	中学保護者					高校保護者					教員				
	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_5	26.4	49.1	18.9	5.7	0.72	21.7	58.5	18.5	1.3	0.81	31.3	64.6	4.2	0.0	1.23
設問_6	35.8	45.3	15.1	3.8	0.94	26.7	53.7	18.0	1.6	0.86	33.3	60.4	6.3	0.0	1.21
設問_7	39.6	49.1	7.5	3.8	1.13	33.1	54.8	9.8	2.4	1.06	58.3	35.4	6.3	0.0	1.46
設問_8	50.9	43.4	5.7	0.0	1.40	34.9	55.8	8.7	0.5	1.16	62.5	35.4	2.1	0.0	1.58
設問_9	37.7	52.8	5.7	3.8	1.15	32.3	56.6	9.8	1.3	1.09	45.8	50.0	4.2	0.0	1.37

【分析と改善策】

中学において項目< 5 >が要検討事項であると読み取れる。これは昨年度と同様の結果のため、改善策の見直しが必要であると考え。これまで、授業だけに焦点を当てて改善を試みてきたが、学校全体として、どれだけ学習に力を入れているかということ発信する必要があると考える。令和6年度からは先行実施した高校の放課後学習の充実を中学版に落とし込んで実施する。これらとセットして授業改革に努め、それを発信していく必要がある。また、高校においても、スコアが0.8を下回っている項目はないが、項目< 5 > < 6 >についてスコアが0.8台であることは留意して、授業の研鑽や、カリキュラムの検討を行っていく必要がある。

【評価】

「教科指導について」の今年度の評価は、要検討事項が中学において1項目あるため、A~Cの3段階で評価（評価Aが最も評価が高い）し、Bとする。

C：教科外活動について

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				教員			
		A	B	C	D	A	B	C	D
C:教科外活動について	10 部活動や生徒会活動が活発に行われている	42.8	47.4	7.9	1.9	62.5	31.3	6.3	0.0
		0% 20% 40% 60% 80% 100%				0% 20% 40% 60% 80% 100%			
11 学校行事が充実している		29.9	54.1	13.9	2.1	60.4	35.4	4.2	0.0
		0% 20% 40% 60% 80% 100%				0% 20% 40% 60% 80% 100%			
12 学内外の活動を通して、ボランティア精神を育む教育が行われている		34.6	49.2	14.8	1.4	16.7	58.3	25.0	0.0
		0% 20% 40% 60% 80% 100%				0% 20% 40% 60% 80% 100%			

< 1 0 > ~ < 1 2 >

評価項目	中学保護者					高校保護者					教員					
	番号	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_10		45.3	37.7	13.2	3.8	1.08	42.4	48.8	7.2	1.6	1.23	62.5	31.3	6.3	0.0	1.50
設問_11		41.5	52.8	5.7	0.0	1.30	28.3	54.2	15.1	2.4	0.91	60.4	35.4	4.2	0.0	1.52
設問_12		39.6	45.3	13.2	1.9	1.08	33.9	49.7	15.1	1.3	1.00	16.7	58.3	25.0	0.0	0.67

【分析と改善策】

教員においては項目< 1 2 >が要検討事項と読み取れる。昨年度は同項目が中学保護者において要検討事項であったが、大幅な改善が見られる。これは中学を含めて希望者を募った「炊き出し」などのボランティア活動に参加したこと、元旦に起きた能登半島地震に対する募金活動を、保護者を含めて呼びかけたことなどによると考えられる。ただし、依然として教員の評価が低く、募金活動だけでなく実際に現地を訪れて活動に参加するような機会を新たに生徒たちに作る必要があると考えているからではないかと推察される。今後、新たな体験型ボランティア活動を検討する必要がある。

【評価】

「教科外活動について」の今年度の評価は、要検討事項が教員において1項目あるため、A~Cの3段階で評価（評価Aが最も評価が高い）し、Bとする。

D：進路指導について

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	評価項目	保護者				教員				
		A	B	C	D	A	B	C	D	
D：進路指導について	13	中学:日々の授業や面談、懇談が進路について意識を高める機会となっている 高校:生徒の希望に沿った進路指導が行われている	31.8	53.1	13.5	1.6	45.5	52.3	2.3	0.0
	14	中学:日々の授業やキャリア教育(職業体験・職場体験・大学体験)が将来を考えるための機会となっている 高校:進路説明会や進路プログラム、キャリア教育等が、生徒が将来を考えることのできる内容になっている	30.2	55.0	14.2	0.7	62.8	34.9	2.3	0.0
	15	中学:日々の授業や語学研修が英語四技能の総合的な育成や国際理解を深めるための機会となっている 高校:大学入試に対応した適切な指導(英語四技能等を含む)が行われている	31.3	53.1	14.8	0.7	44.2	53.5	2.3	0.0

< 1 3 > ~ < 1 5 >

評価項目	中学保護者					高校保護者					教員					
	番号	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_13		22.6	50.9	20.8	5.7	0.64	33.1	53.4	12.4	1.1	1.05	45.5	52.3	2.3	0.0	1.41
設問_14		37.7	45.3	15.1	1.9	1.02	29.1	56.3	14.0	0.5	1.00	62.8	34.9	2.3	0.0	1.58
設問_15		37.7	45.3	15.1	1.9	1.02	30.4	54.2	14.8	0.5	0.99	44.2	53.5	2.3	0.0	1.40

【分析と改善策】

昨年度より、中学の実情に合わせた評価項目となるように変更を行い、高校と評価項目を変えてアンケートを実施している。今年度は、項目< 1 3 >が要検討事項と読み取れる。その他の項目に関しては改善が見られる。これは、新たな職業体験を実施したり、中学3年生で台湾語学研修が初めて実施できた(コロナ禍での中止が続いた)ことが要因と考えられる。また、要検討事項である項目< 1 3 >に関しても、進路行事との関連付けが重要であるとする。まずは、中学校における大学入試を見据えた進路行事を充実させて、それを懇談や生徒面談に連動させていく必要があると考える。また、設問についても「中高一貫の進路指導」をイメージできる表現にしていくことも必要と考える。

【評価】

「進路指導について」の今年度の評価は、要検討事項が中学校において1項目あり、A~Cの3段階で評価(評価Aが最も評価が高い)し、Bとする。

E：生徒指導について

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				教員			
		A	B	C	D	A	B	C	D
E:生徒指導について	16 教員の生徒指導や生徒への関わりが適切に行われている	33.0	50.5	13.5	3.0	37.5	54.2	8.3	0.0
	17 校内におけるいじめの早期発見、防止が適切に行われている	31.0	55.2	11.2	2.6	31.3	64.6	4.2	0.0
	18 生徒一人ひとりに対し、必要に応じて適切な支援が行われている	34.1	49.2	14.4	2.3	37.5	58.3	4.2	0.0

< 1 6 > ~ < 1 8 >

評価項目	中学保護者					高校保護者					教員				
設問_16	35.8	37.7	18.9	7.5	0.75	32.6	52.3	12.7	2.4	1.00	37.5	54.2	8.3	0.0	1.21
設問_17	32.1	50.9	15.1	1.9	0.96	30.9	55.9	10.6	2.7	1.02	31.3	64.6	4.2	0.0	1.23
設問_18	39.6	41.5	15.1	3.8	0.98	33.3	50.3	14.3	2.1	0.98	37.5	58.3	4.2	0.0	1.29

【分析及び改善策】

中学においては項目< 1 6 >が要検討事項であることが読み取れる。教員がしっかりと本結果を自覚し、その場にあった生徒指導を実践していく必要があると考える。また、教員の関わりだけでなく、中学校生活全般における満足度も関係していると考えられるため、スクールポリシーに沿って、学習環境及び生活環境を引き続き整えていく必要があると考える。それ以外の項目については、スコアが上昇し、改善が見られる。スコアの上昇は、いじめ対策アンケートを実施し、それに対して未然にしっかりと対応できたことが要因と考えられる。また、項目< 1 6 >の設問は「丁寧」という表現の使用も必要と考えている。

【評価】

「生徒指導について」の今年度の評価は、要検討事項が中学校において1項目あるため、A～Cの3段階で評価（評価Aが最も評価が高い）し、Bとする。

F：保護者と学校との連携について

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				教員			
		A	B	C	D	A	B	C	D
F:保護者と学校との連携について	19 各種行事の案内が適宜行われている	48.0	45.5	5.6	0.9	72.9	25.0	2.1	0.0
	20 ホームページ(ブログ)やSNSによる情報配信が充実している	37.7	47.9	12.8	1.6	45.8	45.8	8.3	0.0
	21 Classiを使用した連絡が、適切に運用されている	59.3	36.0	4.2	0.5	72.9	27.1	0.0	0.0
	22 保護者説明会・個人懇談の内容、回数が適切である	43.9	49.9	5.3	0.9	14.6	70.8	12.5	2.1

< 19 > ~ < 22 >

評価項目	中学保護者					高校保護者					教員					
	番号	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_19		62.3	34.0	0.0	3.8	1.51	46.0	47.1	6.3	0.5	1.32	72.9	25.0	2.1	0.0	1.69
設問_20		54.7	39.6	3.8	1.9	1.41	35.3	49.1	14.1	1.6	1.02	45.8	45.8	8.3	0.0	1.29
設問_21		81.1	17.0	1.9	0.0	1.77	56.2	38.7	4.5	0.5	1.46	72.9	27.1	0.0	0.0	1.73
設問_22		50.9	39.6	7.5	1.9	1.30	42.9	51.3	5.0	0.8	1.31	68.8	27.1	4.2	0.0	1.61

【分析及び改善策】

昨年同様、中学及び高校ともに全項目良好な結果であった。引き続き、各項目における取り組みに努める。

【評価】

「保護者と学校の連携について」の今年度の評価は、全て良好な結果であるため、A～Cの3段階で評価(評価Aが最も評価が高い)し、Aとする。

G：施設設備について、全般

【結果】

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目	保護者	保護者				教員			
		A	B	C	D	A	B	C	D
G:施設設備について、全般	23 学校内の施設や設備が適切に運用されている	34.2	50.2	12.8	2.8	16.7	54.2	25.0	4.2
	24 避難訓練等、学校の日常の危機管理対策が適切である	29.0	61.0	8.1	1.9	16.7	54.2	25.0	4.2
	25 電話や受付での対応が適切である	46.6	45.0	7.5	0.9	25.0	54.2	18.8	2.1
	26 信愛学院の教育に満足している	39.7	46.6	11.1	2.6	29.2	58.3	10.4	2.1

< 2 3 > ~ < 2 6 >

評価項目	中学保護者					高校保護者					教員					
	番号	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)	スコア
設問_23		43.4	49.1	7.5	0.0	1.28	32.9	50.4	13.5	3.2	0.96	14.6	70.8	12.5	2.1	0.83
設問_24		37.7	58.5	1.9	1.9	1.28	27.8	61.4	9.0	1.9	1.04	16.7	54.2	25.0	4.2	0.54
設問_25		54.7	39.6	5.7	0.0	1.43	45.5	45.7	7.7	1.1	1.27	25.0	54.2	18.8	2.1	0.81
設問_26		49.1	35.8	9.4	5.7	1.13	38.4	48.1	11.4	2.1	1.09	29.2	58.3	10.4	2.1	1.02

【分析及び改善策】

教員においては項目< 2 4 >が要検討事項であることが読み取れる。これは教員の視点から改善の余地を感じていることがあるためと考えられる。今後は、避難訓練の機会を多くすることや、各種避難要因を変えての訓練などを実施していくことが必要と考える。

【評価】

「施設設備について、全般」の今年度の評価は、要検討事項が教員において1項目あるため、A~Cの3段階で評価（評価Aが最も評価が高い）し、Bとする。

7. 2023年度（令和5年度）生徒授業評価アンケートと結果分析 及び 評価











アンケートの評価観点は10項目で、全校生徒に対して、受講している全教科・全科目を対象に実施した。生徒たちの集中力を考慮して、項目が多くなりすぎないように心がけている。また、アンケートの結果は、全教員に配布し、以後の教育活動に活かすよう努めている。結果に関しては、全体、中学校、高等学校に分けてまとめた。

分析は、A（よくあてはまる）を+2、B（ややあてはまる）を+1、C（あまりあてはまらない）を-1、D（まったくあてはまらない）を-2として、各評価A～Dの割合に乗じたものを下欄にスコアとして示した。スコア0.8以上のものを良好と考え、それよりスコアが下回るものを要検討事項と考えている。

【結果】











授業評価アンケート 結果<2023年12月実施分> 全体・中学校・高等学校

中高全体

	A	B	C	D	2023年度 A+B	2022年度 A+B
①授業に集中して取り組むことができている。	58.6%	34.7%	5.5%	1.2%	93.3%	93.2%
						
②その授業で何が重要なのがわかる。	52.8%	37.7%	7.3%	2.2%	90.5%	90.7%
						
③授業の進度やレベルが自分に適切だと感じる。	51.6%	38.2%	8.3%	1.9%	89.8%	89.2%
						
④授業で与えられる課題の量は適切だと感じる。	57.4%	35.5%	5.4%	1.8%	92.9%	93.1%
						
⑤授業に工夫（ICTやプリントの活用、授業形態など）が見られる。	53.4%	37.3%	7.1%	2.3%	90.6%	90.5%
						
⑥授業の学習方法（予習や復習など）が分かる。実技教科に関しては、課題提出や技能向上に向けた取り組み方が分かる。	48.5%	40.6%	8.6%	2.3%	89.1%	89.3%
						
⑦授業に興味・関心をもつことができている。	50.7%	37.1%	8.8%	3.4%	87.8%	86.4%
						
⑧授業を受けて、知識や技能が身についていると感じる。	50.3%	38.4%	8.6%	2.7%	88.7%	88.8%
						
⑨授業が自分の成長のために必要だと感じる。	54.5%	35.1%	7.7%	2.7%	89.5%	90.5%
						
⑩先生の指導に満足している。	58.8%	33.0%	5.9%	2.3%	91.8%	92.2%
						











A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

中学校

	A	B	C	D	2023年度 A+B	2022年度 A+B
①授業に集中して取り組むことができている。	48.0%	40.3%	9.7%	1.9%	88.4%	85.5%
						
②その授業で何が重要なのがわかる。	45.4%	41.1%	9.7%	3.7%	86.6%	84.9%
						
③授業の進度やレベルが自分に適切だと感じる。	43.5%	44.2%	9.8%	2.5%	87.7%	83.0%
						
④授業で与えられる課題の量は適切だと感じる。	52.7%	37.6%	6.5%	3.1%	90.3%	87.9%
						
⑤授業に工夫（ICTやプリントの活用、授業形態など）が見られる。	45.6%	40.2%	10.1%	4.0%	85.9%	84.0%
						
⑥授業の学習方法（予習や復習など）が分かる。実技教科に関しては、課題提出や技能向上に向けた取り組み方が分かる。	40.6%	44.8%	10.7%	3.8%	85.5%	80.4%
						
⑦授業に興味・関心をもつことができている。	45.3%	38.8%	10.5%	5.4%	84.1%	75.8%
						
⑧授業を受けて、知識や技能が身についていると感じる。	45.6%	41.0%	9.5%	4.0%	86.6%	81.0%
						
⑨授業が自分の成長のために必要だと感じる。	50.2%	35.4%	10.2%	4.2%	85.5%	84.0%
						
⑩先生の指導に満足している。	52.1%	35.4%	8.2%	4.4%	87.5%	87.8%
						

A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

高等学校

	A	B	C	D	2023年度 A+B	2022年度 A+B
①授業に集中して取り組むことができている。	60.6%	34.5%	4.1%	0.8%	95.1%	94.8%
						
②その授業で何が重要なのがわかる。	53.5%	38.4%	6.8%	1.3%	91.9%	92.0%
						
③授業の進度やレベルが自分に適切だと感じる。	51.9%	38.6%	8.0%	1.5%	90.5%	90.5%
						
④授業で与えられる課題の量は適切だと感じる。	57.4%	36.7%	4.7%	1.2%	94.0%	94.2%
						
⑤授業に工夫（ICTやプリントの活用、授業形態など）が見られる。	54.4%	37.5%	6.8%	1.3%	91.9%	92.0%
						
⑥授業の学習方法（予習や復習など）が分かる。実技教科に関しては、課題提出や技能向上に向けた取り組み方が分かる。	47.0%	42.8%	8.7%	1.6%	89.7%	91.2%
						
⑦授業に興味・関心をもつことができている。	49.6%	38.9%	8.8%	2.7%	88.5%	88.6%
						
⑧授業を受けて、知識や技能が身についていると感じる。	49.2%	40.1%	8.9%	1.8%	89.3%	90.4%
						
⑨授業が自分の成長のために必要だと感じる。	53.7%	37.0%	7.2%	2.0%	90.7%	91.9%
						
⑩先生の指導に満足している。	60.6%	33.1%	4.9%	1.4%	93.6%	93.1%
						

A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

< 1 > ~ < 1 0 >

項目 番号	中高全体					項目 番号	中学					項目 番号	高校				
	A	B	C	D	スコア		A	B	C	D	スコア		A	B	C	D	スコア
①	58.6%	34.7%	5.5%	1.2%	1.44	①	48.0%	40.3%	9.7%	1.9%	1.23	①	60.6%	34.5%	4.1%	0.8%	1.5
②	52.8%	37.7%	7.3%	2.2%	1.32	②	45.4%	41.1%	9.7%	3.7%	1.15	②	53.5%	38.4%	6.8%	1.3%	1.36
③	51.6%	38.2%	8.3%	1.9%	1.29	③	43.5%	44.2%	9.8%	2.5%	1.16	③	51.9%	38.6%	8.0%	1.5%	1.31
④	57.4%	35.5%	5.4%	1.8%	1.41	④	52.7%	37.6%	6.5%	3.1%	1.30	④	57.4%	36.7%	4.7%	1.2%	1.44
⑤	53.4%	37.3%	7.1%	2.3%	1.32	⑤	45.6%	40.2%	10.1%	4.0%	1.13	⑤	54.4%	37.5%	6.8%	1.3%	1.37
⑥	48.5%	40.6%	8.6%	2.3%	1.24	⑥	40.6%	44.8%	10.7%	3.8%	1.08	⑥	47.0%	42.8%	8.7%	1.6%	1.25
⑦	50.7%	37.1%	8.8%	3.4%	1.23	⑦	45.3%	38.8%	10.5%	5.4%	1.08	⑦	49.6%	38.9%	8.8%	2.7%	1.24
⑧	50.3%	38.4%	8.6%	2.7%	1.25	⑧	45.6%	41.0%	9.5%	4.0%	1.15	⑧	49.2%	40.1%	8.9%	1.8%	1.26
⑨	54.5%	35.1%	7.7%	2.7%	1.31	⑨	50.2%	35.4%	10.2%	4.2%	1.17	⑨	53.7%	37.0%	7.2%	2.0%	1.33
⑩	58.8%	33.0%	5.9%	2.3%	1.4	⑩	52.1%	35.4%	8.2%	4.4%	1.23	⑩	60.6%	33.1%	4.9%	1.4%	1.46

A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

【分析及び改善策】

昨年同様、全体的に良好な結果であると読み取ることができる。ただし、授業に関しては常に改善を促し、教員個々の研鑽が必要である。今後も校内研修や研究授業によって授業力向上に努める。

【評価】

今年度の評価は、中学及び高校ともに、全項目のスコアが0.8以上と良好な結果であることから、A～Cの3段階で評価（評価Aが最も評価が高い）し、Aとする。

8. 2023年度（令和5年度）学校目標に対する評価及び次年度の課題と改善策

評価項目（1）目指す教師像の実現	自己評価
<p>具体的方策 モチベーション・マネージメント制度によって、教員の意識向上と行動の変容を図る。</p> <p><活動実績と自己評価> モチベーション・マネージメント制度導入5年目となり、運用に関して大きな問題は生じていないが、FFシート（評価シート）の提出遅れなど、慣れによる油断が出ている。FFシートに「目指す教師像」の自己評価項目を設定しており、教員が年度の中間に各項目の振り返りを評価者とともにし、年度末に最終の自己評価を行っている。評価は各項目 s・a・b・c の4段階評価にして、sは「十分満足できる」、aは「満足できる」、bは「満足できないことが若干ある」cは「満足できない」としている。s・aを良好として考え、各項目の人数の割合を算出すると、①「生徒の無限の可能性を信じ、成功と失敗を通して成長をさせる教師」79.5%、②「コミュニケーションを十分にとって信頼される教師」69.5%、③「温かさをもって、場面に応じて厳しく指導できる教師」67.0%、④「学校の目標に向かって率先して行動し、協働する教師」69.5%、⑤「敬意、感謝、信頼をもって、お互いに言うべきことは言い合う教師」70.5%、⑥「コミュニケーションを十分にとって助け合う教師」77.5%、⑦「専門分野に精通し、授業力、指導力を高め続ける教師」75.5%、⑧「向上心をもって新しいことに挑戦しながら、振り返り、改善できる教師」77.0%、⑨「社会とつながり、広い視野をもち、新しい教育を追求する教師」58.5%、⑩「常に心が健やかな教師」50.5%であった。評価指標には達しなかったが①～⑧に関しては概ね良好と考えるが、⑨⑩に関しては課題があると考えている。</p> <p><次年度の課題と改善策> 特に、上記に挙げた⑨⑩に関して大きな課題感を持っており、教員の仕事量や煩雑さの問題があると考えている。労務管理と関連するが、教員の働き方改革における時間の捻出を検討していく必要があると考えている。また、他の項目に関しても評価指標に達していないため、評価指標自体が適正であるかも再検討する。</p>	B

<p>評価項目（２）スクールミッション・スクールポリシーの実現</p>	<p>自己評価</p>
<p>具体的方策① 教員及び生徒に自己評価アンケートを実施し、意識付けを行う。</p> <p><活動実績と自己評価> p5でも示したように保護者及び教員による学校自己評価アンケートの結果は良好であった。目標指数である80%に関しては、保護者アンケートで該当項目人数割合平均が「よくあてはまる」「ややあてはまる」84.1%であり、目標の評価指標を達成することができた。教員アンケートでも該当項目人数割合平均が「よくあてはまる」「ややあてはまる」88.6%であり、目標の評価指標を達成することができた。</p> <p>生徒による自己評価アンケートの該当項目人数割合平均が「かなり身についているように感じる」「身についているように感じる」「少し身についているように感じる」を合わせて95.9%であり、目標の評価指標を達成することができた。ただし、「少し身についているように感じる」生徒の割合(41.0%)が多いことには留意しなければならない。</p> <p><次年度の課題と改善策> 結果は良好ではあるが、スクールポリシーを生徒にさらに意識させ学校生活を送ることができるような具体案（教室・廊下掲示など）を検討、実行していきたい。</p>	<p>A</p>
<p>具体的方策② 各行事がスクールポリシーに沿ったものになるように運営する(要項への明記や振り返りの実施)。</p> <p><活動実績と自己評価> 各行事の要項を作成する際には、その目的にスクールポリシーが反映されるように努めた。また、各行事の生徒の振り返りにあたっては、スクールポリシーを意識したアンケート等になるように努めた。</p> <p><次年度の課題と改善策> 次年度もスクールポリシーに沿った行事の運営に努める。</p>	<p>自己評価</p> <p>A</p>

評価項目（3）ICTの活用充実	自己評価
<p>具体的方策 教員用 iPad の追加導入及び、各授業における Chromebook の利用調査を行う。研究授業においても積極的に ICT を活用する。</p> <p><活動実績と自己評価></p> <p>今年度も教員用の iPad を追加導入し、ほぼ全教員への iPad 配当できている。生徒端末の Chromebook 導入も3年を経過したが順調に運用できている。中学校では総合的な学習の時間、高校では総合的な探究の時間では ICT が必須となる授業展開を行っており、その他の教科でも課題の配信や連絡事項、テスト返却等も ICT を使って行う授業が増加している。今年度は各授業における Chromebook の活用調査多及び校内研究授業は実施できなかったが、活用に関しては充実している。</p> <p>教員による学校自己評価アンケート該当項目は「よくあてはまる」「ややあてはまる」が 95.8%、保護者による学校自己評価アンケート該当項目は「よくあてはまる」「ややあてはまる」が 81%であり、目標の評価指標を達成することができた。</p> <p>生徒による自己評価アンケートは「ICT(iPad や Chromebook など)を十分に学習に活用でき、学力向上につながっている」「ICT(iPad や Chromebook など)をかなり学習に活用できている」「ICT をある程度学習に活用できている」が 97.0%であり、目標の評価指標を達成することができた。</p> <p><次年度の課題と改善策></p> <p>引き続き ICT の活用充実を図る。次年度も、新たに効果的な ICT 教材の導入などを検討していく。また、自己評価アンケートにおいて評価指標を上回っているが、今年度できなかった Chromebook の利用調査を実施し、実態把握をしなければならないと考えている。</p>	B

<p>評価項目（４）各コース毎の学習習慣の改善・成績向上・進路実績向上</p>	<p>自己評価</p>
<p>具体的方策① 授業評価アンケートの振り返りを実施し、課題等を共有することで改善を促す。 <活動実績と自己評価> 「2022年度(令和4年度)生徒授業評価アンケートと結果分析」をもとに、2023年度(令和5年度)冒頭に全教員でアンケート結果を共有し、振り返りを行った。また p15 に記載した通り、中高ともに全項目良好な結果であり、目標の評価指標を達成することができた。</p> <p><次年度の課題と改善策> 授業評価アンケート結果は良好であったが、中高ともに大学入試を見据えた授業を展開していく必要がある。今後は高等学校の5教科において、進学実績の目標を見据えた各学年・各学期における到達度の設定を行っていきたいと考えている。また、模試等の成績についても安定した高い学力が維持できるような授業・学習提供を行い、指導体制をさらに強化していく。</p>	<p>A</p>
<p>具体的方策② 英検・GTEC スコア・漢検の各学年における指標を示し、生徒が率先して学習に取り組む姿勢をサポートする。 <活動実績と自己評価> 各学年における英検・GTEC スコア・漢検の指標を英語科・国語科より示し、それぞれの目標達成に向けて生徒の学力サポートに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英検の各学年における目標達成率については次の通りである。※()内が目標の評価指標 目標の評価指標を超えた、もしくは指標に近い学年・コースはあったものの、指標に届かない学年・コースが多かった点は反省点である。 中1) 4級 30.3%(80%) 中2) 3級 26.7%(50%) 中3) 3級 64.5%(80%) 高1) 特進コース準2級 30.6%(50%) その他コース3級 29.3%(60%) 高2) 特進コース2級 42.5%(60%) その他のコース準2級 48.0%(40%) 高3) 文理S・文理コース2級 73.6%(80%) その他のコース準2級 55.8%(60%) ・高校 GTEC スコアにおける評価指標については、各学年とも目標の評価指標(全学年の平均スコア+40 以上)を達成することができた。 高2) 高1→高2の平均スコア +51 高3) 高2→高3の平均スコア +76 ・漢検の各学年における目標達成率については次の通りである。※()内が目標の評価指標 目標値に近い学年・コースはあったものの、目標値を超える学年・コースがなかった点は大きな反省点である。 中1) 4級 27.2%(50%) 中2) 4級 33.3%(100%) 中3) スーパー文理3級 90.9%(100%)・学際3級 20.0%(50%) 高1) 特進コース準2級 11.2%(50%)・その他コース3級 25.6%(50%) 高2) 特進コース準2級 44.1%(100%) その他コース3級 48%(100%) 高3) 文理S・文理コース2級 21%(50%) その他コース準2級 15.5%(50%) <p><次年度の課題と改善策> 目標値と授業等の学習が正確に連動しているかを検討すると同時に、再度目標設定及び授業等の学習との連動に関して各教科で検討する必要がある。</p>	<p>自己評価</p> <p>B</p>

評価項目（５）進学実績の向上	自己評価
<p>具体的方策 生徒の能力を最大限に伸ばし、希望する進路を実現するための学習指導と進路指導を担当と教科担当者が密に連携して実現する。</p> <p><活動実績と自己評価> 今年度の進路結果に関しては以下の通りであり、目標の評価指数を達成することがわずかながらできなかった。文理 S・文理コースにおいては、京阪神大または旧帝大を含む国公立大学の合格者を含むことを目標としたが達成することができなかった。しかし、国公立大学の医学部医学科を合格する生徒がいたことは大き成果である。 国公立大・関関同立) 合格者数 17 名(国公立 5 名 関関同立 12 名) ※評価指標 20 名 産近甲龍・三女子大) 合格者数 24 名(産近甲龍 9 名 三女子大 15 名) ※評価指標 30 名</p> <p><次年度の課題と改善策> 次年度は、共学化及びコースの再編を行って初めての高3生となる。特進コースは国公立型の教育課程のみとしているため、国公立大学の合格者数を大きく伸ばすことを最大限の目標とする。総合進学コース及び看護医療コースにおいても、指定校推薦制度のあり方を変更し、この制度に頼らない学習を実践し、総合型選抜、学校推薦型選抜(公募制)、一般選抜を含む合格者数を伸ばすことを目標とする。そのためにも、生徒の学習状況を正確に分析し、受験校を決めていく必要がある。</p>	B

<p>評価項目（6）入学者数の増員</p>	<p>自己評価</p>
<p>具体的方策① 学びの環境を整え、受験生とその保護者にアピールする。</p> <p><活動実績と自己評価> 中学においては、新たに放課後学習（ハイレベル進学講座・Shin-Ai 講座における開成教育グループとの連携）を準備して、プレテストからそれらの説明を行った。 高校においては、学習メンター制度、校内予備校講座、夏期講習（駿台予備校早期共通テスト対策含）などをブラッシュアップし、学びの環境をさらに整えた。 中学校は、昨年度より多い38名の入学者を確保することができた。高校は、昨年度からさらに大幅に入学生を増やし、278名の入学生を迎えることができた。高校は大きく目標値を達成し、中学もほぼ目標値に近づくことができた。</p> <p><次年度の課題と改善策> 中学に関しては、新しい放課後学習がスタートするため、質の高い授業内容に加え、その内容をしっかりとアピールしていく。高校に関しては、入学者数の維持及び増員を目指してさらに学びの環境を整え、それらを受験生や保護者にしっかりとアピールしていく。また、学習面だけでなく、体育館の空調などを含め、学校生活全般の学びの環境も整備していく。</p>	<p>A</p>
<p>具体的方策② 重点地域を意識した募集活動を行う。</p> <p><活動実績と自己評価> 近隣の中学校との連携を強化し、各種イベント案内や学校の説明などの募集活動も行った。新たに学校説明会を行わせていただく中学校も増やすことができた。結果及び評価に関しては具体的方策①で示した通りである。</p> <p><次年度の課題と改善策> 中学は、塾訪問を増やし、塾との連携を強化していく。高校は、引き続き近隣中学校との連携を強化し、受験につながるように募集活動を行っていく。</p>	<p>自己評価</p> <p>A</p>
<p>具体的方策③ 各種イベント、広報ツール・方法を改善する。</p> <p><活動実績と自己評価> 各種イベントについては、オープンキャンパスや入試説明会での説明の内容を見直し、改善した。広報ツールとしては、共学特設サイト（高校のみ）、Instagram、YouTube 広告などを使って宣伝を行った。結果及び評価に関しては具体的方策①で示した通りである。</p> <p><次年度の課題と改善策> オープンキャンパスの内容に関してはさらに改善できるように入試広報部を中心に検討、実施を行っていく。中学においては、ホームページ及び各種説明会での内容を刷新して広報活動に努める。</p>	<p>自己評価</p> <p>A</p>

9. 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員会の構成

後援会代表 2名・愛友会（同窓会）代表 2名・教育会代表（高校副会長及び中学評議員） 3名
中高教員代表（校長・教頭） 2名 計 9名

(2) 開催日時

令和6年7月27日（土） 9：00～10：00

(3) 評価のために使用した資料

2023年度 学校評価報告書原案

- ・学校目標と具体的方策及び評価指標
- ・学校評価アンケート（保護者・教員）と結果分析及び評価
- ・生徒授業評価アンケートと結果分析及び評価
- ・自己評価及び次年度の課題と改善策
- ・2024年度の方針（教育改善PDCAサイクルのイメージ）

(4) 学校関係者評価委員会における意見

<中学・高校について>

- ・来校した際に男子生徒から「おはようございます」と声をかけてもらって、学校が良くなっていると感じた。
- ・バスや電車など、近隣で信愛の生徒と会った時にも挨拶をしっかりとしてくれるので好印象である。
- ・夏休み中も自習室で勉強している生徒がいるのは感心した。
- ・英検はわかりやすい指標である。英検に向けた勉強で合格するのではなく、授業で身につけているから合格できるというのが理想である。
- ・ある程度、学力に幅はあっても、お互いに学び合うことができる場所も私学の良いところである。
- ・中学から塾に行き出すと、信愛よりもっと良いところがあると塾から言われてしまう。ただし、信愛で中高を過ごした生徒の方が進学実績は良かった。高校から他校に進学した際に、信愛中学校での授業の進度と内容は間違いなかったと思った。
- ・塾は中学校や高等学校の情報をしっかりと把握していないことがある。塾を訪問して、信愛の学習や進学実績に関して説明することも重要だと思う。高校で手厚く見てもらえたことは事実である。

<中学>

- ・他校の方に「放課後学習で外部講師の指導があること」を話すと手厚いと言われる。
- ・学校の授業とグローバルコモンズで英語が好きになったので感謝している。
- ・外部講師による進路講演会は良かった。こういった取り組みを発信する努力をした方が良い。評価されると思う。
- ・入学してすぐのオリエンテーションで6年後の大学受験のことにも触れてもらい、その後、進路講演会も2回あり、生徒本人も納得して学習を進めることができているので良かったと感じている。
- ・毎日自主学习ノートに先生方がコメントを書いているのが嬉しい。人数が増えていても、一人ひとりを大切にしていることが伝わってくる。
- ・少人数教育も魅力はあるが、クラスの人数が少ないのは残念である。視野を広げるためにも、多くの生徒が在籍するようになってほしい。

<高校>

- ・懇談では良い意味で厳しく指導してもらい、子どものことをしっかりと考えてくれていると感じた。
- ・担任の先生だけではなく、学年主任も学習や進路に関してアドバイスをしてくれる。また、職員室にもよく質問しに行っており、先生方と話しやすい雰囲気がある。
- ・他校に通う兄弟姉妹と比べると、先生方の進路指導が丁寧に行われている。受験指導も最後までサポートしてくれて、受験を乗り越えられたと感じている。
- ・高校の在籍者数がかかなり減った時期があった。しかし、現在はかなり人数が増えており、先生方の努力を感じる。時間はかかるが、着実に実を結んでいる。

10. 2024年度（令和6年度）の方針（教育改善PDCAサイクルのイメージ）

P

- 1 目指す教師像の実現
- 2 スクールミッション・スクールポリシーの実現
- 3 ICTの活用充実
- 4 学力向上
- 5 進学実績向上
- 6 入学者数増員



D

- 1 教員の意識向上と行動の変容の促進を目的としたモチベーション・マネジメント制度の実施
- 2 教員及び生徒の自己評価の実施 及び スクールポリシーに沿った各教育活動(行事等)の実施
- 3 ICT環境の拡充・充実 及び Chromebook の利用調査の実施
- 4 授業評価アンケート振り返り・共有の実施 及び 研究授業の実施、英検・GTEC スコアの各学年における指標に向けた学習活動の実施、学習到達度分析の実施
- 5 希望する進路を実現するための学習指導 及び 進路分析会の実施、進路指導における担任と教科担当者の連携強化、学習環境の拡充
- 6 学びの環境充実（各コースの特性あった効果的な教育課程、重点地域を意識した募集活動、各種イベント・広報ツール等の見直しの実施



C

- 1 教員のモチベーションマネジメント制度・FFシートの分析
- 2 教員・生徒・保護者による自己評価アンケートの分析
- 3 教員・生徒・保護者による自己評価アンケートの分析
- 4 各学年及び教科による分析
- 5 進路指導部及び高3学年会による分析
- 6 校務調整会議 及び 募集広報連絡会における分析



A

- 1 行動変容の実践
- 2 具体的教育内容の実践
- 3 ICT環境の再整備と有効利用の実践
- 4 各指標達成のための指導改善の実践
- 5 各指標達成のための取り組み改善の実践
- 6 教育内容のブラッシュアップ 及び 広報活動の実践